

## 9 特色ある学校づくりの取組（平成 30 年度）



（小学校校舎：1～5年）



（中学校6年生校舎）

### 1 目 的

#### （1）小中一貫型教育の推進

広田小学校、広田中学校の小中一貫型教育2年目にあたり、昨年度の実践の成果と課題をもとに実践を行い、中学校教諭による乗り入れ授業や中学生との交流活動を重視し、円滑に中学校生活に移行することができる連携体制をつくる。

また、年2回の説明会を開催し実践内容を報告したり、学校だよりや小中連携だよりを定期的に発行したりして保護者や地域への周知を図る。

#### （2）地域人材を生かした体験活動による、心豊かな児童の育成

1000名を超える大規模校ではあるが、地域の「人・もの」に恵まれ、様々な体験活動を実施することができる。この地域教材を、生活科や総合的な学習の時間の学習に生かし、学年の発達段階に応じた体験活動と地域の方々との交流活動を仕組み、教科等の学習と関連付けながら総合的な学力を身に付けさせる。また、本校に定着している図書ボランティア「よむよむ」の活動を中学校舎の6年生にまで広げることにより、読書への興味・関心を高めるとともに豊かな感性をもった児童を育成する。

#### （3）課題を明確にした学力向上の推進

全国学力学習状況調査（6学年）、県・市の学力テスト（5・4学年）に加え、2・3学年も学力調査を実施する。結果を分析し、本校児童の課題を明確にし、校内研修を通じて指導法の研究を行ったり学習教材の整備をしたりする。また、活用する力を育成したり、そのための基礎となる「基本的な学力」を定着させたりするため、課題に応じたプリント集等を整備する。さらに、保幼小中間での学習習慣の確立等基本的な生活習慣の定着に向けた取組や、集中力・基礎的学力を付けるための「朝のスキルタイム」を学校全体で工夫する。

## 2 実践内容

### (1) 小中一貫型教育の推進

#### 【6年生が中学生と一緒に取り組んだ学校行事等】

※始業式・終業式は小学校で実施 ※前期始業式のあと 「出発式」(小学校舎) 「歓迎式」(中学校舎) ※体育大会 ※文化発表会の合唱コンクールに参加 ※マラソン大会(距離を短くして6年生も参加) ※駅伝大会(6年選抜チームで参加)	<b>期日</b>	<b>集会・行事等</b>
	4月	6年生歓迎式、部活動紹介
	6月	いのちを見つめる日、6.29平和集会
	7月	前期前半終了 全校集会
	8月	8.9 平和集会
	9月	前期後半開始 全校集会、 <u>体育大会</u>
	10月	文化発表会
	12月	人権集会、 <u>マラソン・駅伝大会</u>

☆ 前期始業式・終業式、後期始業式、卒業証書授与式は小学校校舎で実施する。

#### 【乗り入れ授業・出前授業の実践】

- 乗り入れ授業：外国語活動・音楽・書写の3教科において、中学校教諭が専科を担当し授業を行う。
- 出前授業：総合的な学習や体育等の教科において、TTとして中学校教諭が適宜指導に入り、教科担任制のよさを生かし専門的な視点から指導の補助を行う。

#### 【6年生と1～5年生との交流活動】

- 歓迎遠足：小学校で参加
- クラブ活動：(年間10時間程度)は、小学校で実施。
- 縦割班活動：交流の場の工夫
  - ・小学校舎の1～5学年が、機会をとらえて中学校舎を訪れ交流を行う場面を設定。
  - 2年生：修学旅行前に、天気がよくなるようにと「てるてる坊主」を作って6年教室まで届ける。
  - 3年生：町探検の途中で、6年教室に立ち寄り交流活動。
  - 5年生：6年生から中学校舎での生活の様子を学ぶ活動。
  - ・次年度も、学年ごとに6年生との交流の場を設けていく。

#### 【保護者・地域への説明会の場】

- ・12月14日(金)：小中一貫型教育の進捗状況に関する保護者・地域への説明会
- ・1月30日(水)：5年保護者を対象の説明会  
6年校舎での生活の様子や次年度の予定について周知を図った。  
当日参加できなかった家庭には資料を配付した。

## **(2) 地域人材を生かした体験活動による、心豊かな児童の育成**

### **【第1学年：保幼との交流会（生活科：4月・1～2月）】**

新1年生として入学してくる保育園・幼稚園児を本校に招待し、交流の場を設定。生活科の学習で取り組んだ「お正月の昔遊び」（福笑い・コマ回し・羽子板・お手玉・けん玉）などの遊びで共遊する活動を設定した。1年生児童は、先輩として優しく丁寧に遊び方を教えるなど思いやりの心情が育ち、今後の交流学习に向けても意欲の高まりが見られた。

また、本年度から「保幼小連携スタートカリキュラム」を開始し、1年生の入門期にあたる4月に、生活科の学習を軸に、小学校での学びや生活習慣の基礎を身に付けさせる時間を設定した。年々、1年担任を中心に小学校と保育園・幼稚園の連携が深まってきている。

### **【第2学年：サツマイモの栽培（生活科：5月～10月）】**

本年度も、JA西海農協の協力により、学校の花壇でサツマイモのツル差しを行い、秋には芋を収穫した。生活科の学習で、収穫するまでの過程を観察したことを劇などの思い思いの方法で表現し保護者へ発表する場「秋まつり」を開催した。体育館で開催することで、大人数の前で、劇や紙芝居などの様々な方法を工夫して発表することができた。

保護者の協力を得て、収穫した芋をふかし、食する体験も行った。

### **【第3学年：昔遊び交流会（総合的な学習：6月・11月）】**

本年度もGTとして地域のお年寄りをお招きして、昔遊びを通した交流会を実施した。けん玉、あやとり、おはじき、羽子板お手玉などの昔遊びをお年寄りの方々に教えていただいたり、共に遊んだりすることで、子供たちは日本の伝統文化を体験し、お年寄りから多くのことを学ぶことができた。地域に伝わる伝統行事について学ぶ活動では、自分たちの住む広田の町により愛着を感じることができた。その活動から、広田の歴史にも興味を広げ、住吉神社や古墳跡地、広田城跡などの地域の史跡を調べるという活動につなげることができた。

### **【第4学年：長崎平和学習・花の栽培活動（総合的な学習：7月・10～3月）】**

7月に長崎平和学習を実施した。本年度は、長崎さるくガイドのスタッフを、課題別コース研修にあてることで、テーマごとのコースに分かれ学習を進めることができた。11月に、ボランティア「花づくり協力隊」の協力を得て、卒業式・入学式へ向けた花の栽培活動に取り組んだ。地域のお年寄りとの交流を楽しむとともに、草取りや水やり活動を通して、植物を大切に育てようとする心が育った。

### **【第5学年：「命と食について考えよう」大豆の栽培・味噌づくり（総合的な学習：4～11月）】**

JA西海農協の協力で、学校の敷地内で大豆の栽培を行い、味噌をつくる活動を行った。水やりや雑草抜きなどの常時活動を通して、植物栽培の難しさを味わい農家の苦労を実感することができた。また、大豆で味噌づくりをする体験を通し、加工するという伝統の知恵を学ぶことができた。学習のまとめとして、授業参観で学習したことを発表した。書物やインターネットから必要な資料を選び活用する力や、プレゼンテーションを使ってわかりやすくまとめる力が付いた。保護者にアンケートを実施し情報を収集するなど意欲的に探究活動に取り組むグループも見られた。

### 【第6学年：「日本や世界の文化を体験しよう」（総合的な学習：6～11月）】

本校は、長崎国際大学が近隣にあることを生かし、例年大学の施設で児童が日本文化等に関する体験学習を行ったり、海外からの留学生を招待して交流学習を実施したりしている。本交流学習も定着し、外国語活動の時間に学んだ英会話を生かして留学生に話しかけようとする児童も見られるようになり、国際理解に関する意識が深まってきている。また、昨年度に続き、小中一貫型教育を生かし中学校教諭による「出前授業」を行い、華道体験を実施することができた。

#### ○「茶道体験学習：日本の伝統文化を考える活動」

6月に、長崎国際大学の茶室で、茶道の専門家と茶道部の学生の方から指導を受け「侘び・寂び」の世界を味わうことができた。

#### ○「留学生との交流：国際理解教育」

7月と10月に、長崎国際大学の留学生との交流学習を行った。本年度は、中国・香港・韓国の留学生と交流し、それぞれの国の文化や遊びについて紹介していただいた。また、児童が作成した日本文化についてのパンフレットを渡したり、日本の遊びを紹介したりする活動を通して双方向の交流ができた。

### 【全学年：読書活動の推進（通年）】

火曜朝の時間帯は「朝読書」の時間とし、読書活動に取り組んだ。本年度も、読み語りボランティアグループ「よむよむ」の協力を得て、学年毎に絵本の読み語りを行った。6年生校舎での活動も定着し、全学年の児童が、読み読みの時間をとても楽しみにしている。

## **(3) 課題を明確にした学力向上の推進**

#### ① 既習の学習内容の定着度の確かめ、基礎・基本の徹底【国語・算数】

4～6学年は、国・県・市が実施する学力調査を実施。2・3学年については、学力調査を別途実施した。それぞれの結果を分析し、基本的な学習内容の定着に向けた対策を立てた。各教科課題別のプリント集を整備することで、朝のチャレンジタイム（月・木曜日朝8：25～8：40）や家庭学習の課題として活用した。

#### ② 校内研修テーマ「自ら進んで考え、まとめ、表現し学びを深め合う児童の育成」に向け教師の授業力を高める。

初任者をはじめとする若手教員も多く、同学年による話し合いや授業研究等を通して学年統一した指導体制の構築を図った。特に本年度は、授業の中に以下の2点を盛り込み、授業実践と振り返りを行い教師の授業力向上を図った。

ア 毎時間の授業について「めあて」と「まとめ」を明確にした授業実践

イ 自分の考えを絵や図、言葉でかき説明する活動、自他の考えを伝え合う活動を仕組む。